

## 2021年3月期 中間決算短信〔日本基準〕(連結)

2020年11月16日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社揚工舎

コード番号 6576

URL <http://rehabili-youko.com/>

代表者 (役職名)代表取締役社長

(氏名)伊藤 進

問合せ先責任者 (役職名)取締役管理本部長

(氏名)中山 俊之

(TEL) 03(5944) 2680

中間発行情報提出予定日 2020年12月28日

配当支払開始予定日

—

中間決算補足説明資料作成の有無 : 無

中間決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2021年3月期中間期の連結業績 (2020年4月1日~2020年9月30日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年3月期中間期	1,103	15.8	36	544.6	68	—	71	—
2020年3月期中間期	953	9.2	5	△88.4	△5	—	△20	—

(注) 中間包括利益 2021年3月期中間期 71百万円 (—%) 2020年3月期中間期 △20百万円 (—%)

	1株当たり 中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり 中間純利益
	円 銭	円 銭
2021年3月期中間期	101.56	—
2020年3月期中間期	△29.97	—

(注) 潜在株式調整後1株当たり中間純利益については、潜在株式が存在しないため、記載していません。

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2021年3月期中間期	1,580	384	24.4
2020年3月期	1,491	313	21.0

(参考) 自己資本 2021年3月期中間期 384百万円 2020年3月期 313百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金		
	中間期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭
2020年3月期	0.00	0.00	0.00
2021年3月期	0.00		
2021年3月期(予想)		0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 2021年3月期の連結業績予想 (2020年4月1日~2021年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	2,243	13.1	91	90.0	120	219.1	126	669.8	180.93

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当中間連結会計期間における重要な子会社の異動 : 有  
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規 1社(社名) 株式会社ヨウコーフォレスト河辺

有限会社ケアクリエイトは2020年8月19日付で株式会社ヨウコーフォレスト河辺に商号変更しております。

- (2) 中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無  
② ①以外の会計方針の変更 : 無  
③ 会計上の見積りの変更 : 無  
④ 修正再表示 : 無

- (4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)  
② 期末自己株式数  
③ 期中平均株式数(四半期累計)

2021年3月期中間期	700,000株	2020年3月期	700,000株
2021年3月期中間期	—株	2020年3月期	—株
2021年3月期中間期	700,000株	2020年3月期中間期	700,000株

※ 中間決算短信は公認会計士又は監査法人の中間監査の対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社グループが現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる場合があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料4ページ「1. 当中間決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当中間決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 中間連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 中間連結貸借対照表	5
(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書	7
(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項	11
(継続企業の前提に関する注記)	11
(新型コロナウイルスの感染拡大の影響に関する会計上の見積り)	11
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	11
(会計方針の変更)	11
(セグメント情報)	12
(重要な後発事象)	13
3. その他	14
継続企業の前提に関する重要事象等	14

## 1. 当中間決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当中間連結会計期間におけるわが国経済は、製造業、非製造業とも改善が見られました。自動車生産の再開、テレワーク・リモートワークの拡大による電子機器や電子部品の需要回復が製造業を押し上げ、物流及び宿泊・飲食サービスにおける営業再開や営業時間短縮要請の解除などが、非製造業の小幅な改善につながりました。しかし、業績の急回復はいまだに見込めず、利益計画や設備投資計画が下方修正されるなど、先行きは不透明な状況が続いております。

介護サービス業界においては、国内の高齢化が進む中、介護サービス利用者及び介護給付費は年々増加しつつも、社会保障の財源は限られており、また介護サービスの従事者は慢性的な人手不足の状況であり、財源の調整や介護従事者を増やすための促進事業に関して、行政は様々な施策を毎年打ち出してきております。これらの施策を施行する制度改定に対して、介護事業者はサービスの質を維持向上させつつ、一方コストを適正に管理する経営努力が求められております。

このような状況のもと当社グループにおきましては、2019年5月に株式譲渡によって取得した「ヨウコーフォレスト館山」、2019年7月に事業譲渡によって取得した「ヨウコーフォレスト花小金井」の2施設及び2020年3月に株式会社木下キャリアサポートから事業譲渡された介護・看護・保育分野における紹介・派遣事業の実績が当中間連結会計期間の業績に反映され、また、本年8月には、東京都青梅市で有料老人ホームを運営する有限会社ケアクリエイトの株式を取得し、1施設が増えたため、グループ全体の売上高と利益は前年同期に対して大きく伸長することとなりました。

しかし、本年年明けから拡大しはじめた新型コロナウイルスの感染拡大防止のための施策である外出自粛、他人との接触を避けるなどの行為は、介護、教育、紹介・派遣業界にも影響を及ぼし、第1四半期において、事業によっては前年割れをする分野もありましたが、7月以降感染防止対策の緩和とともに前年割れをした分野の業績も回復傾向にあります。

また、政府が打ち出した新型コロナウイルスの経済対策では、各種支援金、助成金、慰労金などの営業外収益があり、加えて、事業所が利用している賃貸物件の契約合意解除に伴う補償金収入がありました。

この結果、当中間連結会計期間の売上高は1,103,730千円(前年同期比15.8%増)となり、営業利益は36,305千円(同544.6%増)、経常利益は68,271千円(前年同期は経常損失5,442千円)、親会社株主に帰属する中間純利益は71,089千円(前年同期は親会社株主に帰属する中間純損失20,977千円)となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

#### ① デイサービス事業

当セグメントにおきましては、顧客アンケートに基づくサービスの質的向上に努めてきた結果、徐々に売上高を伸ばしてまいりましたが、本年年明けから拡大しはじめた新型コロナウイルスの影響により、外出を控える利用者が増えたため、第1四半期においては、売上高・利益とも前年実績を下回りましたが、7月以降は改善に向かうこととなりました。

以上の結果売上高は283,372千円(前年同期比4.2%増)、セグメント利益は55,059千円(同0.6%増)となりました。

#### ② 有料老人ホーム事業

当セグメントにおきましては、前年の株式譲渡により取得した「ヨウコーフォレスト館山」及び事業譲渡により取得した「ヨウコーフォレスト花小金井」の2施設が増えたため、当中間連結会計期間においては、2施設分の実績が加わったことにより、当セグメントの売上高は大きく伸長することとなりました。また、「ヨウコーフォレスト館山」取得に要した初期投資費用が前中間連結会計期間の利益を押し下げましたが、その後の運営は堅調に推移しております。また、本年8月に東京都青梅市で有料老人ホームを運営する有限会社ケアクリエイトの株式を取得し、同社の商号を株式会社ヨウコーフォレスト河辺に変更すると同時に、同社運営の施設名も「ヨウコーフォレスト河辺」に変更して、新たな運営を開始いたしました。これにより、当社グループの有料老人ホームは9施設になりました。

以上の結果、売上高は626,265千円(同20.9%増)、セグメント利益は32,771千円(前年同期はセグメント損失12,101千円)となりました。

## ③ 在宅サービス事業

当セグメントにおきましては、利用者宅に訪問してサービス提供するという性質上、新型コロナウイルスの感染拡大の影響は大きく、7月以降は回復に向かってはいるものの、第1四半期においては、自宅への訪問サービスの提供を控える利用者が多かったため、売上高・利益とも前年実績を下回ることとなりました。

以上の結果、売上高は、99,819千円(同8.8%減)、セグメント利益は43,997千円(同16.1%減)となりました。

④ 教育・紹介派遣事業の 当セグメントにおきましては、2020年3月に株式会社木下キャリアサポートから介護・看護・保育分野における紹介・派遣事業を譲り受け、同事業の規模は拡大することとなりました。しかし、前年同期と比較して事業規模は拡大しましたが、利益面では、新型コロナウイルスの影響による労働者派遣の注文の減少、顧客拡大のためのホームページ改修費用などが、利益を押し下げることとなりました。

以上の結果、売上高(外部顧客への売上高)は、94,273千円(同75.5%増)、セグメント利益は5,088千円(同1.1%減)となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

## ①資産、負債及び純資産の状況

## (流動資産)

当中間連結会計期間末における流動資産の残高は710,088千円となり、前連結会計年度末と比較して122,546千円の増加となりました。これは主に、現金及び預金が98,757千円、売掛金が14,033千円増加したことによるものであります。

## (固定資産)

当中間連結会計期間末における固定資産の残高は870,423千円となり、前連結会計年度末と比較して33,271千円の減少となりました。これは主に、のれんが18,483千円、建物及び構築物が10,913千円減少したことによるものであります。

## (流動負債)

当中間連結会計期間末における流動負債の残高は309,790千円となり、前連結会計年度末と比較して19,734千円の増加となりました。これは主に、流動負債その他が23,605千円増加したこと、1年内返済予定の長期借入金が8,734千円減少したことによるものであります。

## (固定負債)

当中間連結会計期間末における固定負債の残高は885,733千円となり、前連結会計年度末と比較して1,817千円の減少となりました。これは主に、リース債務が3,810千円、長期前受収益が1,854千円減少したこと、長期借入金が2,667千円、固定負債その他が1,098千円増加したことによるものであります。

## (純資産)

当中間連結会計期間末における純資産の残高は384,987千円となり、前連結会計年度末と比較して71,358千円の増加となりました。これは主に、当中間連結会計期間における親会社株主に帰属する中間純利益71,089千円を計上したことによる利益剰余金の増加によるものであります。

## ②キャッシュ・フローの状況

当中間連結会計期間末における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末に比べて99,897千円増加し、315,330千円となりました。

当中間連結会計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの主な増減要因は次のとおりであります。

## (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは、110,898千円の収入(前年同期は22,747千円の支出)となりました。これは、税金等調整前中間純利益98,353千円、助成金収入36,226千円、立退料の受取額30,000千円、減価償却費17,858千円、のれん償却額18,483千円などによるものであります。また、減少要因の主なものは、法人税等の支払額30,562千円、利息の支払額12,206千円などによるものであります。

## (投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは、969千円の支出(前年同期は65,697千円の支出)となりました。これ

は、有形固定資産の取得による支出1,467千円などによるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは、10,032千円の支出(前年同期は12,920千円の支出)となりました。これは、長期借入金の返済による支出86,067千円、リース債務の返済による支出3,965千円によるものであります。また、増加要因の主なものは、長期借入金の借入による収入80,000千円であります。

### (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、当中間連結会計期間の業績を考慮し、通期の業績予想を修正いたしました。詳細につきましては、2020年11月13日に公表いたしました「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

## 2. 中間連結財務諸表及び主な注記

## (1) 中間連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当中間連結会計期間 (2020年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	216,573	315,330
売掛金	351,361	365,395
商品	152	1,357
その他	25,131	29,508
貸倒引当金	△5,677	△1,504
流動資産合計	587,541	710,088
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	337,316	326,402
土地	133,732	133,732
リース資産(純額)	154,921	150,504
その他(純額)	13,772	12,135
有形固定資産合計	639,742	622,775
無形固定資産		
のれん	179,518	161,034
リース資産	6,785	5,512
その他	3,555	3,278
無形固定資産合計	189,858	169,825
投資その他の資産		
繰延税金資産	9,826	11,857
その他	64,266	65,964
投資その他の資産合計	74,093	77,821
固定資産合計	903,694	870,423
資産合計	1,491,236	1,580,511

(単位:千円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当中間連結会計期間 (2020年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	16,715	18,307
1年内返済予定の長期借入金	110,625	101,891
リース債務	8,038	8,236
未払法人税等	20,352	23,425
その他	134,324	157,929
流動負債合計	290,055	309,790
固定負債		
長期借入金	482,937	485,604
リース債務	166,046	162,236
資産除去債務	28,060	28,141
長期前受収益	96,746	94,891
その他	113,760	114,858
固定負債合計	887,550	885,733
負債合計	1,177,606	1,195,523
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	42,500	42,500
資本剰余金	12,500	12,500
利益剰余金	264,429	335,518
株主資本合計	319,429	390,518
その他包括利益累計額		
繰延ヘッジ損益	△5,800	△5,530
その他の包括利益累計額合計	△5,800	△5,530
純資産合計	313,629	384,987
負債純資産合計	1,491,236	1,580,511



## (2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書

## 中間連結損益計算書

## 中間連結会計期間

(単位:千円)

	前中間連結会計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
売上高	953,267	1,103,730
売上原価	792,606	923,364
売上総利益	160,661	180,365
販売費及び一般管理費	155,028	144,060
営業利益	5,632	36,305
営業外収益		
受取利息	1	1
受取賃貸収入	4,416	4,416
助成金収入	822	36,226
雑収入	1,691	2,357
貸倒引当金戻入額	—	3,115
営業外収益合計	6,931	46,116
営業外費用		
支払利息	11,826	12,244
その他	6,180	1,905
営業外費用合計	18,006	14,150
経常利益又は経常損失(△)	△5,442	68,271
特別利益		
立退料収入	—	30,000
負ののれん発生益	—	81
特別利益合計	—	30,081
税金等調整前中間純利益又は税金調整前中間純損失(△)	△5,442	98,353
法人税、住民税及び事業税	16,272	29,437
法人税等調整額	△737	△2,173
法人税等合計	15,535	27,264
中間純利益又は中間純損失(△)	△20,977	71,089
親会社株主に帰属する中間純利益又は親会社株主に帰属する中間純損失(△)	△20,977	71,089

## 中間連結包括利益計算書

中間連結会計期間

(単位:千円)

	前中間連結会計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
中間純利益又は中間純損失(△)	△20,977	71,089
その他の包括利益		
繰延ヘッジ損益	598	269
その他の包括利益合計	598	269
中間包括利益	△20,379	71,358
(内訳)		
親会社株主に係る中間包括利益	△20,379	71,358

## (3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

	前中間連結会計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前中間純利益又は税金等調整前中間純損失(△)	△5,442	98,353
減価償却費	15,134	17,858
のれん償却額	12,941	18,483
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△1,321	△4,173
受取利息	△1	△1
支払利息	11,826	12,244
立退料収入	—	△30,000
負ののれん発生益	—	△81
助成金収入	△822	△36,226
売上債権の増減額(△は増加)	△37,459	△14,033
たな卸資産の増減額(△は増加)	△67	△1,205
仕入債務の増減額(△は減少)	981	1,591
その他	1,375	24,630
小計	△2,857	87,440
利息の受取額	1	1
利息の支払額	△11,826	△12,206
立退料の受取額	—	30,000
助成金の受取額	822	36,226
法人税等の支払額	△8,888	△30,562
営業活動によるキャッシュ・フロー	△22,747	110,898
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△120	—
定期預金の払戻による収入	—	1,140
有形固定資産の取得による支出	△19,120	△1,467
無形固定資産の取得による支出	△3,520	—
敷金及び保証金の回収による収入	35	—
敷金及び保証金の差入による支出	—	△25
貸付による支出	△49,000	—
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による収入	17,427	—
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	—	△0
投資その他の資産の収入	569	—
投資その他の資産の支出	—	△616
事業譲受による支出	△11,970	—
投資活動によるキャッシュ・フロー	△65,697	△969

(単位:千円)

	前中間連結会計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入金の借入による収入	100,000	80,000
長期借入金の返済による支出	△109,441	△86,067
リース債務の返済による支出	△3,479	△3,965
財務活動によるキャッシュ・フロー	△12,920	△10,032
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△101,365	99,897
現金及び現金同等物の期首残高	233,079	215,433
現金及び現金同等物の中間期末残高	131,713	315,330

(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(新型コロナウイルスの感染拡大の影響に関する会計上の見積り)

新型コロナウイルス感染症の拡大を要因とする当社グループの事業に関する影響の度合いは未だ不透明な部分がありますが、その影響は限定的であるとの仮定に基づき当連結会計年度における繰延税金資産の回収可能性等の会計上の見積りを行っております。

しかしながら、新型コロナウイルス感染症の収束が遅延し、想定を超える需要への影響が生じた場合には、翌連結会計年度以降の当社グループの財政状態及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

該当事項はありません。

## (セグメント情報)

前中間連結会計期間(自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					調整額 (注)1	合計 (注)2
	デイサービス	有料老人ホーム	在宅サービス	教育・紹介派遣	計		
売上高							
外部顧客への売上高	271,969	518,146	109,439	53,711	953,267	—	953,267
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	900	900	△900	—
合計	271,969	518,146	109,439	54,612	954,168	△900	953,267
セグメント利益又は損失(△)	54,712	△12,101	52,454	5,146	100,211	△94,578	5,632

(注)1 セグメント利益又は損失(△)の調整額△94,578千円は、報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

(注)2 セグメント利益又は損失(△)は、中間連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報

該当事項はありません。

## 3. 報告セグメントごとののれんの償却及び未償却残高に関する情報

(単位:千円)

	デイサービス	有料老人ホーム	在宅サービス	教育・紹介派遣	合計
前中間期償却額	—	11,280	—	1,660	12,941
前中間期末残高	—	90,952	—	3,520	94,472

## 4. 報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報

該当事項はありません。

当中間連結会計期間(自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					調整額 (注)1	合計 (注)2
	デイサービス	有料老人ホーム	在宅サービス	教育・紹介派遣	計		
売上高							
外部顧客への売上高	283,372	626,265	99,819	94,273	1,103,730	—	1,103,730
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	28,442	28,442	△28,442	—
合計	283,372	626,265	99,819	122,716	1,132,173	△28,442	1,103,730
セグメント利益	55,059	32,771	43,997	5,088	136,917	△100,611	36,305

(注)1 セグメント利益の調整額△100,611千円は、報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

(注)2 セグメント利益は、中間連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報

該当事項はありません。

## 3. 報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報

(単位：千円)

	デイサービス	有料老人ホーム	在宅サービス	教育・紹介派遣	合計
当中間期償却額	—	12,460	—	6,023	18,483
当中間期末残高	—	66,032	—	95,002	161,034

## 4. 報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報

当中間連結会計期間において、有限会社ケアクリエイトの株式を取得し、連結子会社にしたことにより、負ののれん発生益を81千円計上しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

### 3. その他

継続企業の前提に関する重要事象等  
該当事項はありません。